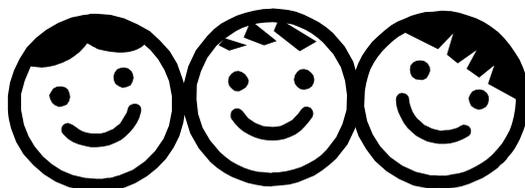


高 校 生 の 男 女 共 同 参 画 と
D V 対 する 男 女 の 意 識 に 関 する
ア ン ケ ー ト 調 査 結 果 に つ い て



令 和 5 年 2 月

鹿 角 市 市 民 部 生 活 環 境 課

調査の概要

1. 調査目的

本市では、男女共同参画について考えるきっかけづくりや人権教育の推進などを図り、男女がそれぞれを認め合い、思いやる関係の構築と格差・差別、暴力のない社会を目指しています。

本調査は、高校生における男女共同参画と男女間のDV意識に関する実態の把握を行い、DVについての認識を浸透させるとともに、今後の若年層に向けた男女共同参画事業の参考とし、男女共同参画社会の実現を目指すことを目的としています。

2. 調査対象

花輪高校1年生、十和田高校2年生を対象としました。

3. 調査方法

対象の158人に対して学校を通じて調査票を配付し、記入後回収しています。

4. 調査期間

令和4年11月28日（月）から12月27日（火）まで

5. 調査内容

- ・男女共同参画に関する用語の認知度について・・・・・・・・・・・・・・・・P 1
- ・学校における男女共同参画について・・・・・・・・・・・・・・・・P 3
- ・結婚、家庭、離婚に対する考え方について・・・・・・・・・・・・・・・・P 4
- ・性別により役割や責任が固定される考え方について・・・・・・・・P 9
- ・デートDVについて・・・・・・・・・・・・・・・・P 10
- ・DV行為に対する意識について・・・・・・・・・・・・・・・・P 12
- ・DV行為に関する相談機関について・・・・・・・・・・・・・・・・P 26
- ・性別に関わらず、生きやすい社会にするために必要なことについて・・・・P 27

6. 調査結果

調査票送付数	158
調査票回収数	149
回収率	94.3%

7. 調査結果の公表について

本調査の集計結果は、各校に配付するほか、市ホームページ上で公開します。また、鹿角市男女共同参画推進会議に報告するとともに、必要に応じて市民に周知し、若年層に向けた男女共同参画施策の企画立案の基礎資料とします。

8. その他

割合の表示は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、比率の合計は100%にならない場合があります。

○回答者の属性

問1. あなたの性別は。

	人数(人)	割合(%)
男性	55	36.9
女性	93	62.4
未記入	1	0.7
計	149	100

○調査の結果

※性別について、未記入者の回答も全体の値に含む

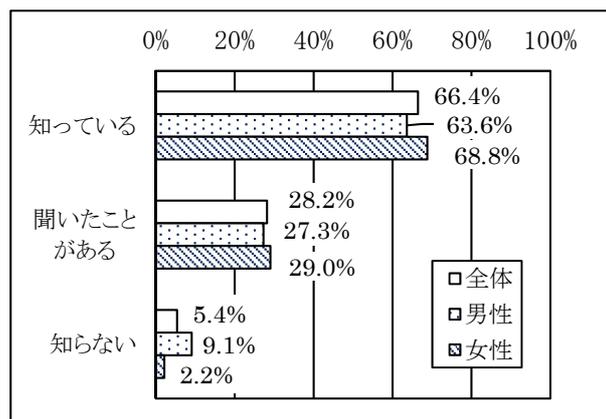
・男女共同参画に関する用語の認知度について

問2. あなたは、次のような用語について知っている、または聞いたことがありますか。

(1) 男女共同参画社会

6割以上の生徒が「知っている」と回答しました。

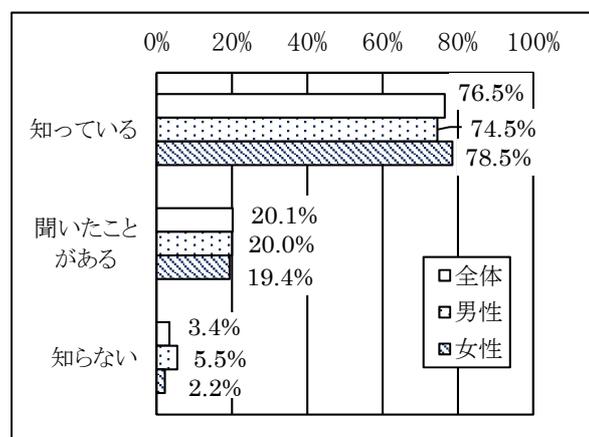
	全体		男性		女性	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
知っている	99	66.4	35	63.6	64	68.8
聞いたことがある	42	28.2	15	27.3	27	29.0
知らない	8	5.4	5	9.1	2	2.2
計	149	100	55	100	93	100



(2) ワーク・ライフ・バランス

7割以上の生徒が「知っている」と回答しました。

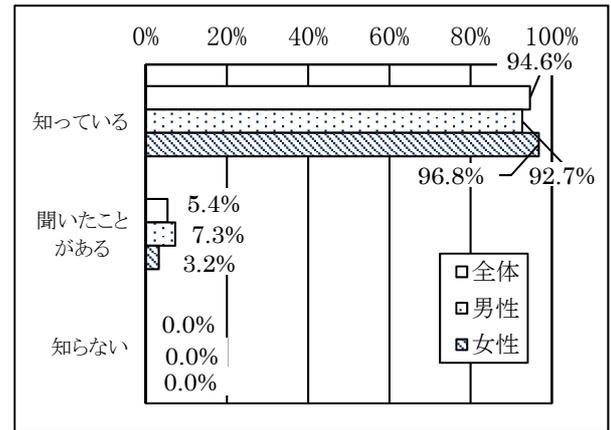
	全体		男性		女性	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
知っている	114	76.5	41	74.5	73	78.5
聞いたことがある	30	20.1	11	20.0	18	19.4
知らない	5	3.4	3	5.5	2	2.2
計	149	100	55	100	93	100



(3) DV

9割以上の生徒が「知っている」と回答しました。
また、「知らない」と回答した生徒はいませんでした。

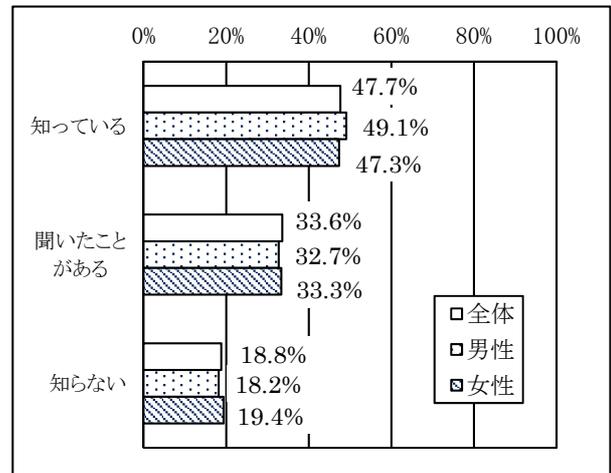
	全体		男性		女性	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
知っている	141	94.6	51	92.7	90	96.8
聞いたことがある	8	5.4	4	7.3	3	3.2
知らない	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	149	100	55	100	93	100



(4) 育児・介護休業法

4割以上の生徒が「知っている」と回答しました。

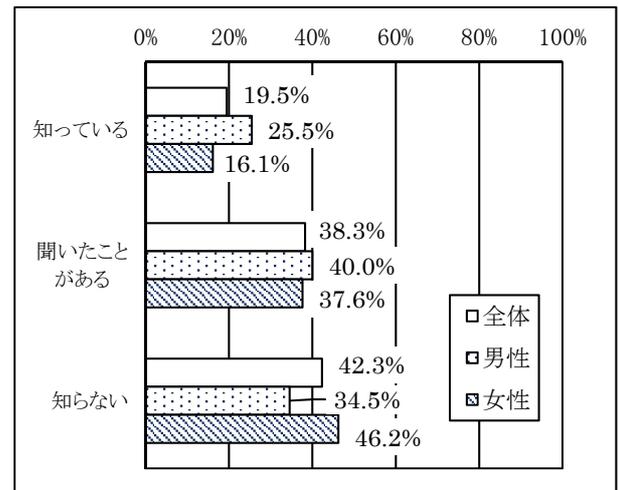
	全体		男性		女性	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
知っている	71	47.7	27	49.1	44	47.3
聞いたことがある	50	33.6	18	32.7	31	33.3
知らない	28	18.8	10	18.2	18	19.4
計	149	100	55	100	93	100



(5) 固定的性別役割分担

4割以上の生徒が「知らない」と回答しました。

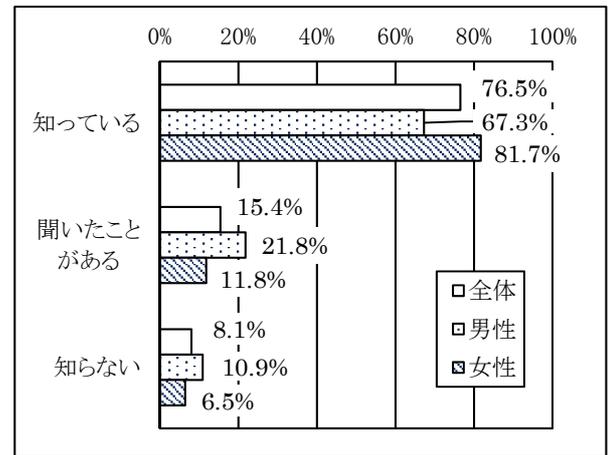
	全体		男性		女性	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
知っている	29	19.5	14	25.5	15	16.1
聞いたことがある	57	38.3	22	40.0	35	37.6
知らない	63	42.3	19	34.5	43	46.2
計	149	100	55	100	93	100



(6) LGBT

7割以上の生徒が「知っている」と回答しました。

	全体		男性		女性	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
知っている	114	76.5	37	67.3	76	81.7
聞いたことがある	23	15.4	12	21.8	11	11.8
知らない	12	8.1	6	10.9	6	6.5
計	149	100	55	100	93	100



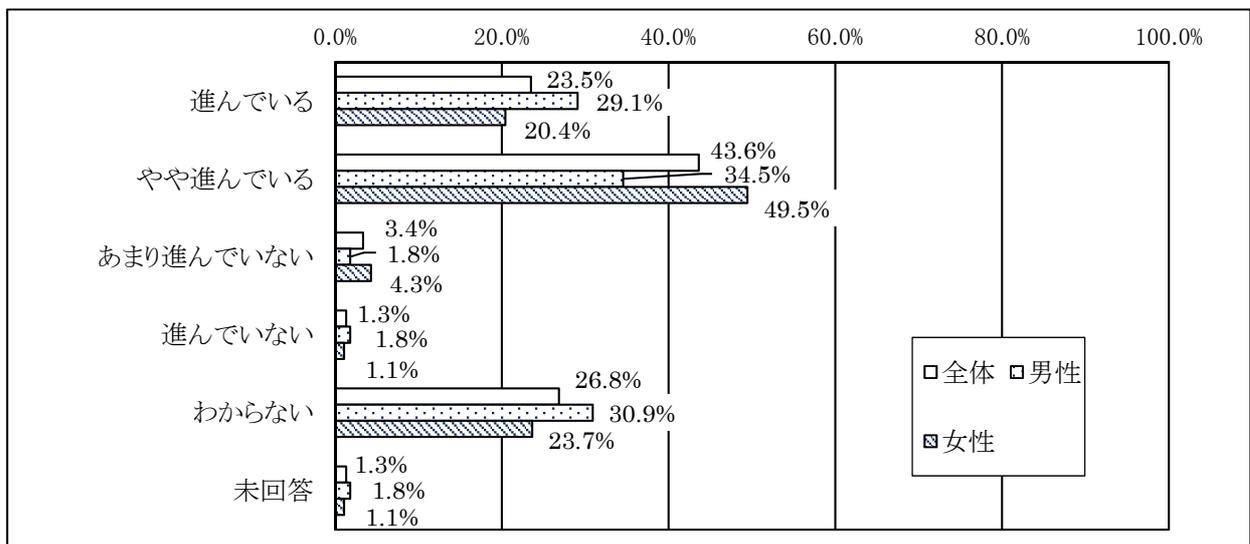
○「育児・介護休業法」以外の5つの用語について、昨年度より「知っている」の割合が増加しました。特に、「LGBT」については、「知っている」の割合が昨年度より28.0ポイント増加しており、近年の社会における「LGBT」への関心の高さがうかがえます。

・学校における男女共同参画について

問3. 学校において男女共同参画は進んでいると思いますか。

6割以上の生徒が「進んでいる」または「やや進んでいる」と回答し、女性の割合が若干高くなっています。

	全体			男性			女性		
	人数(人)	割合(%)		人数(人)	割合(%)		人数(人)	割合(%)	
進んでいる	35	23.5	67.1	16	29.1	63.6	19	20.4	69.9
やや進んでいる	65	43.6		19	34.5		46	49.5	
あまり進んでいない	5	3.4	4.7	1	1.8	3.6	4	4.3	5.4
進んでいない	2	1.3		1	1.8		1	1.1	
わからない	40	26.8		17	30.9		22	23.7	
未回答	2	1.3		1	1.8		1	1.1	
計	149	100		55	100		93	100	



○「進んでいる」または「やや進んでいる」の回答について、昨年度は男性が女性より7.9ポイント高くなりましたが、今年度は女性が男性より6.3ポイント高くなりました。

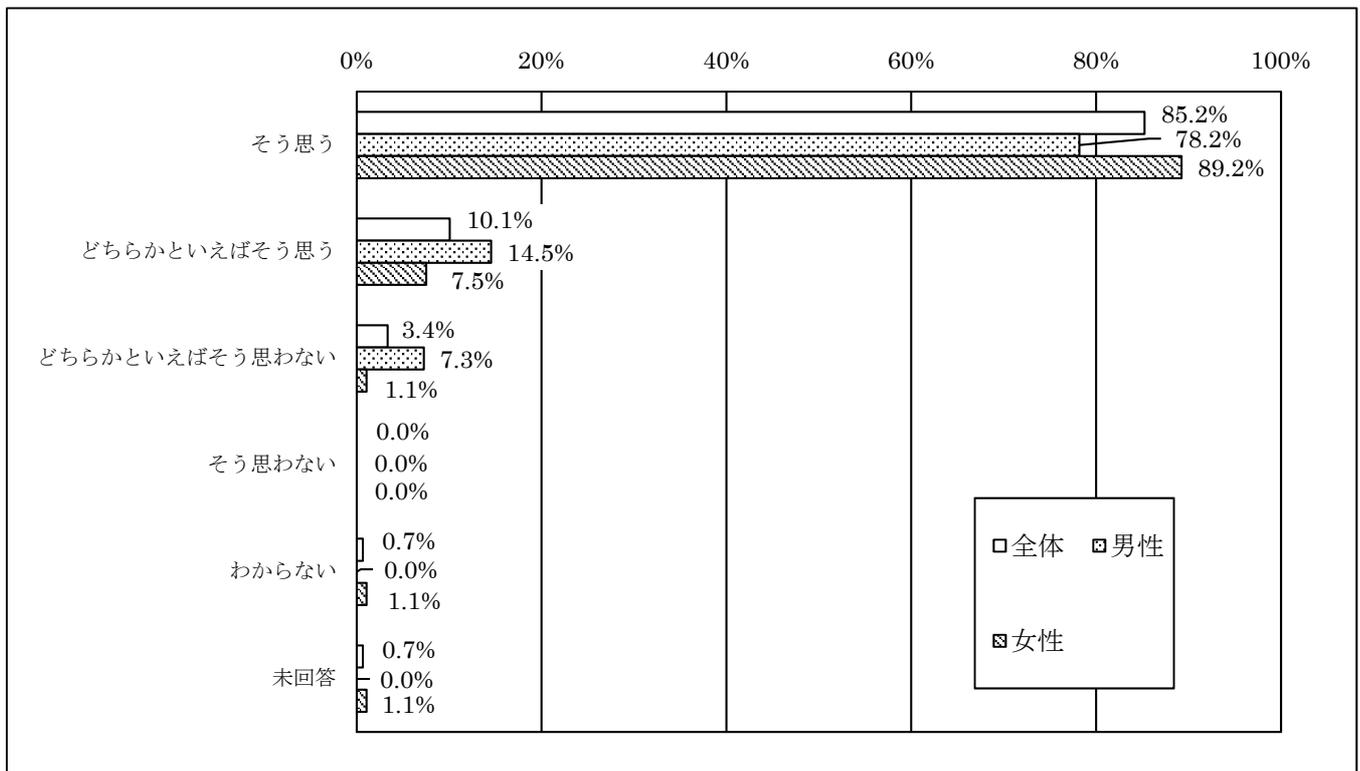
・結婚、家庭、離婚に対する考え方について

問4. 結婚、家庭、離婚に関する次の考え方について、あなたはどのように思いますか。

(1)結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい

9割以上の生徒が「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答しました。

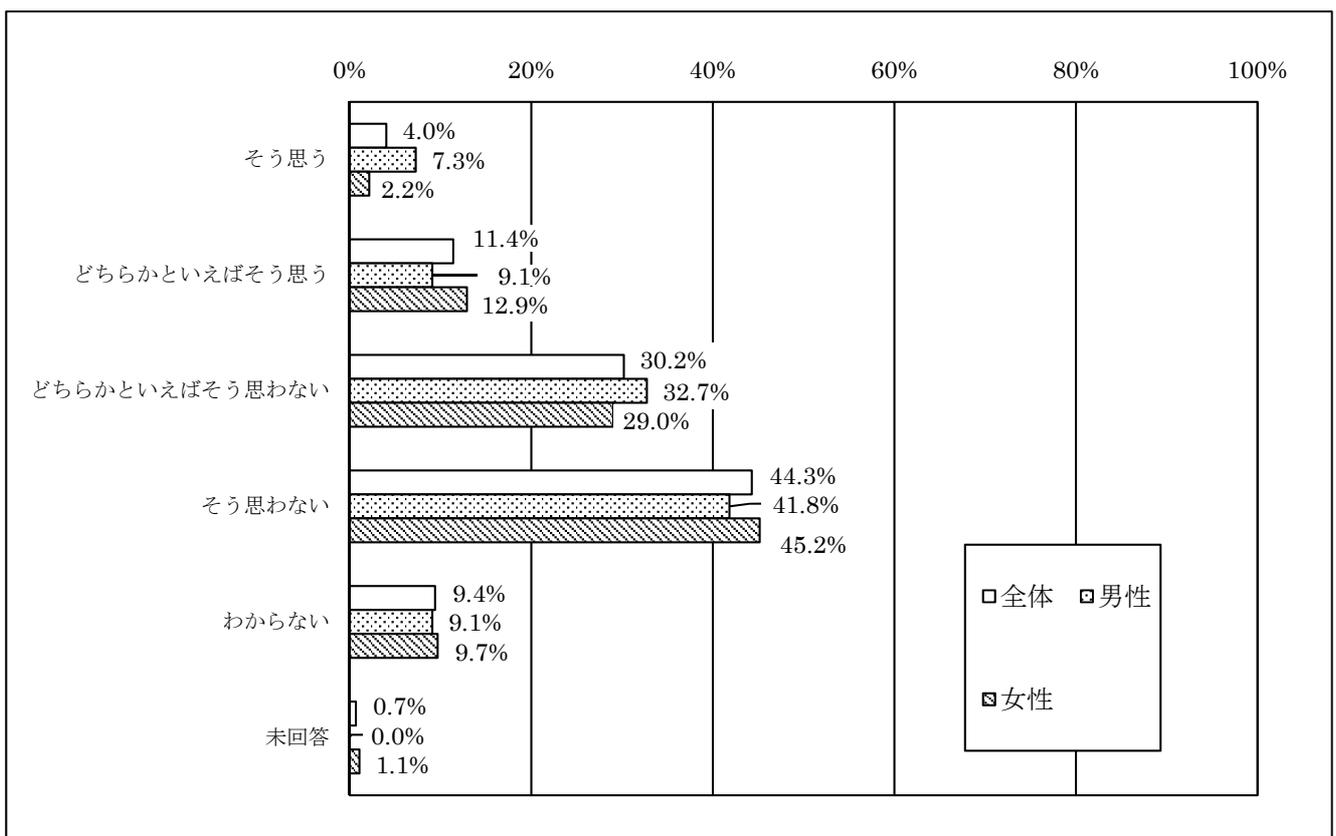
	全体		男性		女性	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
そう思う	127	85.2	43	78.2	83	89.2
どちらかといえば そう思う	15	10.1	8	14.5	7	7.5
どちらかといえば そう思わない	5	3.4	4	7.3	1	1.1
そう思わない	0	0.0	0	0.0	0	0.0
わからない	1	0.7	0	0.0	1	1.1
未回答	1	0.7	0	0.0	1	1.1
計	149	100	55	100	93	100



(2) 女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家庭を中心に考えて生活したほうがよい

7割以上の生徒が「どちらかといえばそう思わない」または「そう思わない」と回答しました。

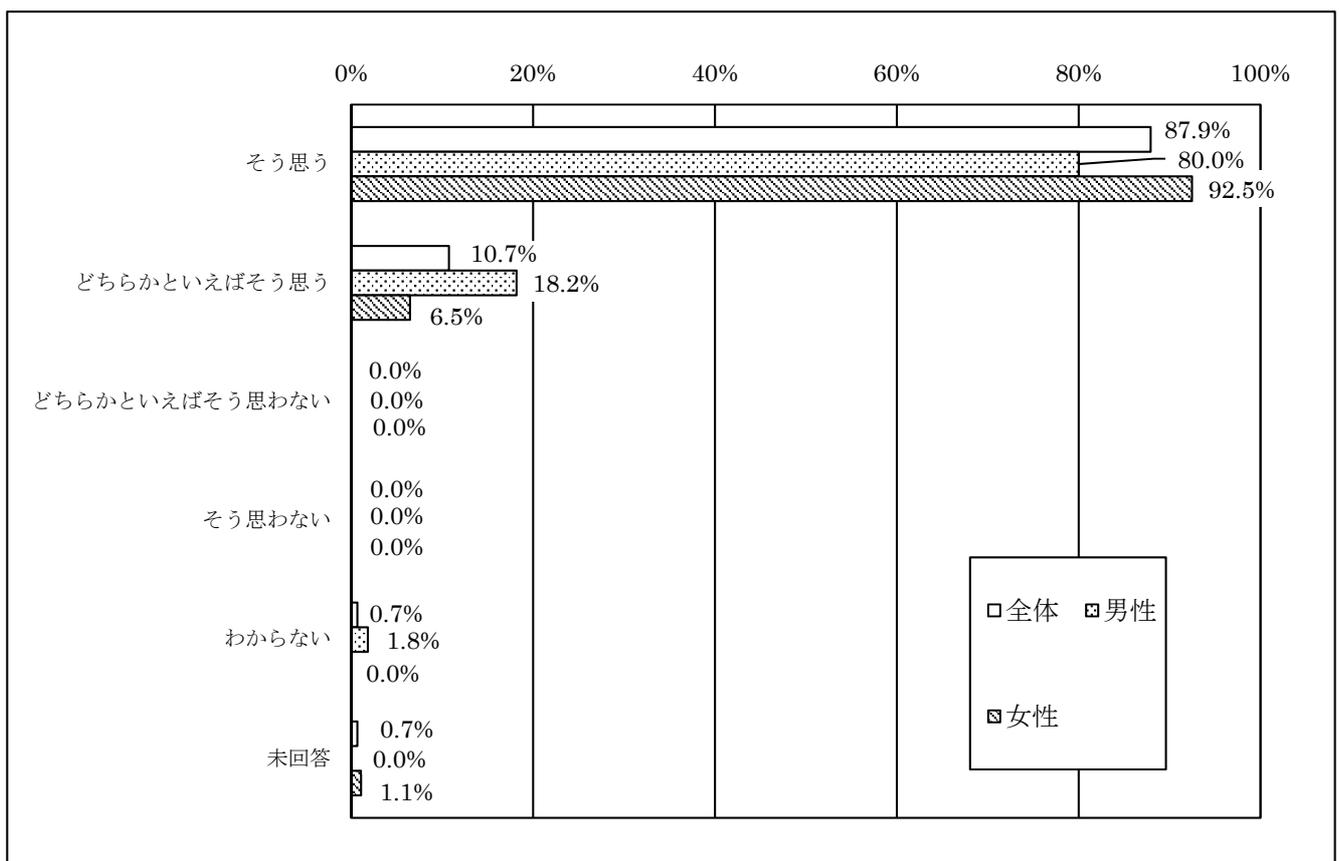
	全体		男性		女性	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
そう思う	6	4.0	4	7.3	2	2.2
どちらかといえば そう思う	17	11.4	5	9.1	12	12.9
どちらかといえば そう思わない	45	30.2	18	32.7	27	29.0
そう思わない	66	44.3	23	41.8	42	45.2
わからない	14	9.4	5	9.1	9	9.7
未回答	1	0.7	0	0.0	1	1.1
計	149	100	55	100	93	100



(3)家事や育児、介護などの家庭生活は、男性も女性も協力し合っていくほうがよい

9割以上の生徒が「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答し、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と回答した生徒はいませんでした。

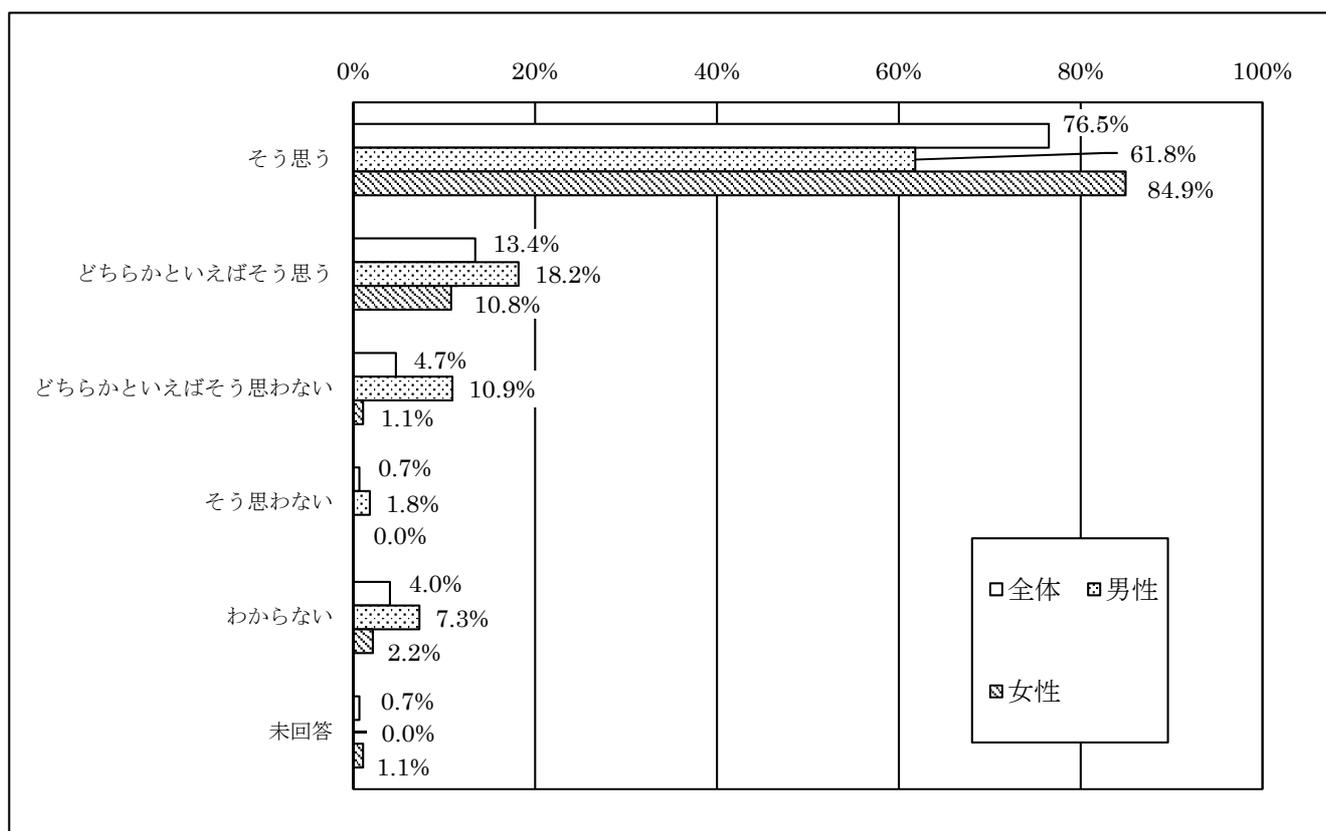
	全体			男性			女性		
	人数(人)	割合(%)		人数(人)	割合(%)		人数(人)	割合(%)	
そう思う	131	87.9	98.6	44	80.0	98.2	86	92.5	99.0
どちらかといえば そう思う	16	10.7		10	18.2		6	6.5	
どちらかといえば そう思わない	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0
そう思わない	0	0.0		0	0.0		0	0.0	
わからない	1	0.7		1	1.8		0	0.0	
未回答	1	0.7		0	0.0		1	1.1	
計	149	100		55	100		93	100	



(4) 結婚しても必ず子どもを持つ必要はない

約9割の生徒が「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答し、女性の割合が高く、男性との差は15.7ポイントとなっています。

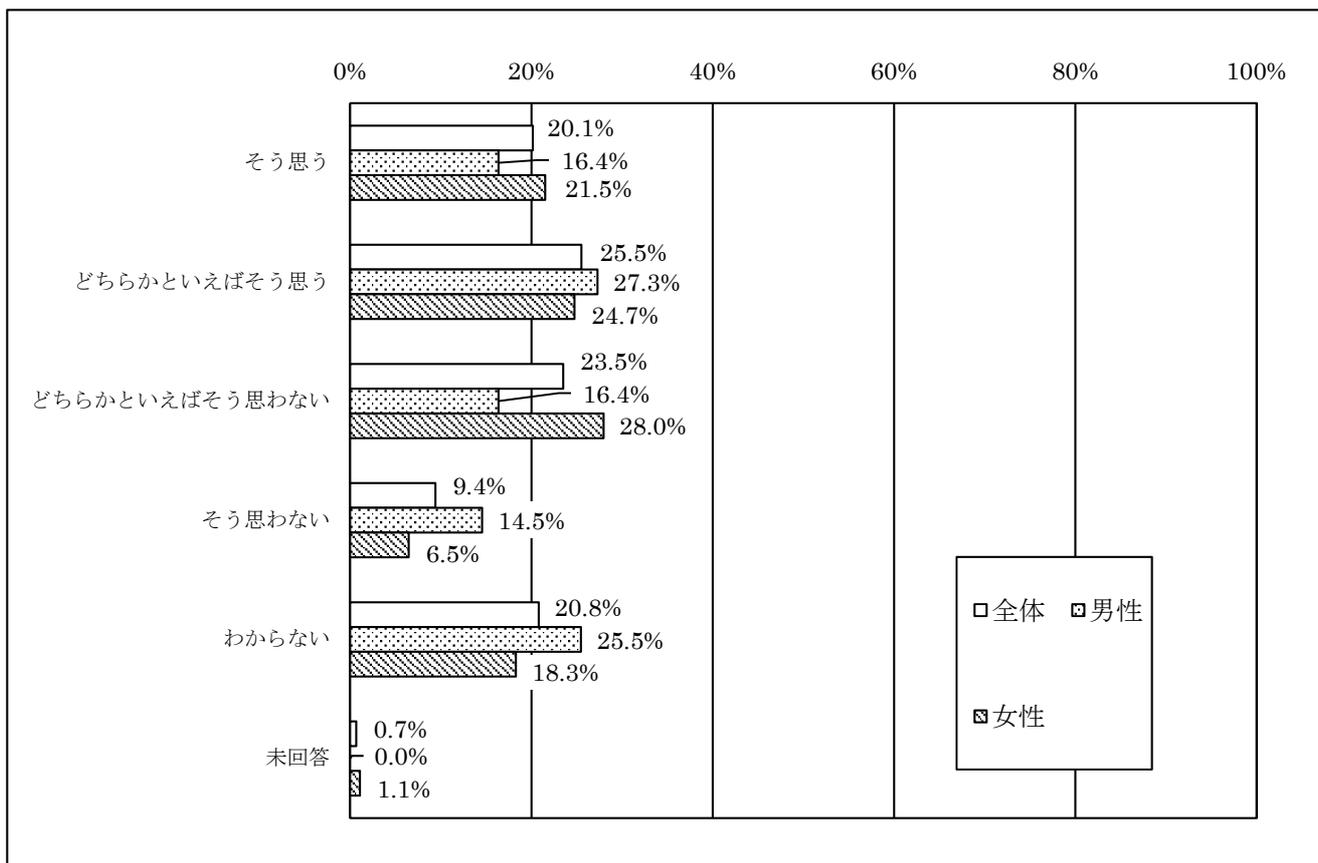
	全体		男性			女性		
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)		人数(人)	割合(%)	
そう思う	114	76.5	34	61.8	80.0	79	84.9	95.7
どちらかといえば そう思う	20	13.4	10	18.2		10	10.8	
どちらかといえば そう思わない	7	4.7	6	10.9	12.7	1	1.1	1.1
そう思わない	1	0.7	1	1.8		0	0.0	
わからない	6	4.0	4	7.3	2	2.2		
未回答	1	0.7	0	0.0	1	1.1		
計	149	100	55	100	93	100		



(5) 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい

4割以上の生徒が「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答しました。

	全体		男性			女性		
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)		人数(人)	割合(%)	
そう思う	30	20.1	9	16.4	43.7	20	21.5	46.2
どちらかといえば そう思う	38	25.5	15	27.3		23	24.7	
どちらかといえば そう思わない	35	23.5	9	16.4	30.9	26	28.0	34.5
そう思わない	14	9.4	8	14.5		6	6.5	
わからない	31	20.8	14	25.5	17	18.3		
未回答	1	0.7	0	0.0	1	1.1		
計	149	100	55	100	93	100		



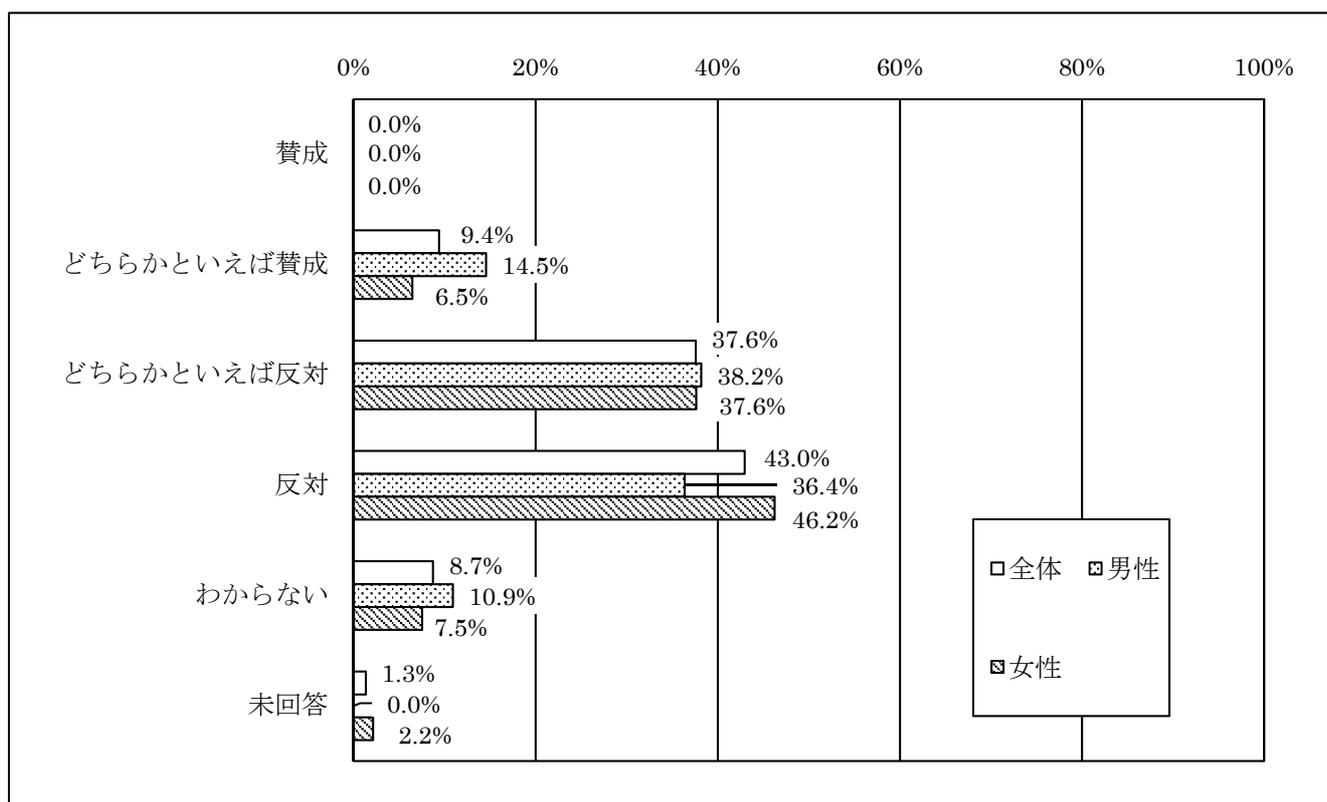
○ (1) ~ (5) について、昨年度と同じような割合の回答となりました。

・性別により役割や責任が固定される考え方について

問5. 本人の意思に関わらず、性別により役割や責任が固定される考え方について、あなたはどのように思いますか。

約8割の生徒が「どちらかといえば反対」または「反対」と回答し、女性の割合が高く、男性との差は9.2ポイントとなっています。

	全体		男性		女性	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
賛成	0	0.0	0	0.0	0	0.0
どちらかといえば賛成	14	9.4	8	14.5	6	6.5
どちらかといえば反対	56	37.6	21	38.2	35	37.6
反対	64	43.0	20	36.4	43	46.2
わからない	13	8.7	6	10.9	7	7.5
未回答	2	1.3	0	0.0	2	2.2
計	149	100	55	100	93	100



○昨年度も、「どちらかといえば反対」または「反対」と回答した女性の割合が84.8%と高く、男性との差は20.9ポイントでした。昨年度より、固定的役割分担に対する男性と女性の考え方が近づいています。

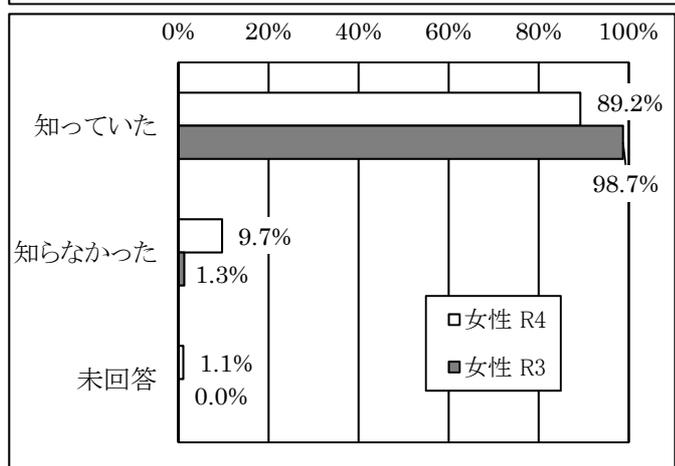
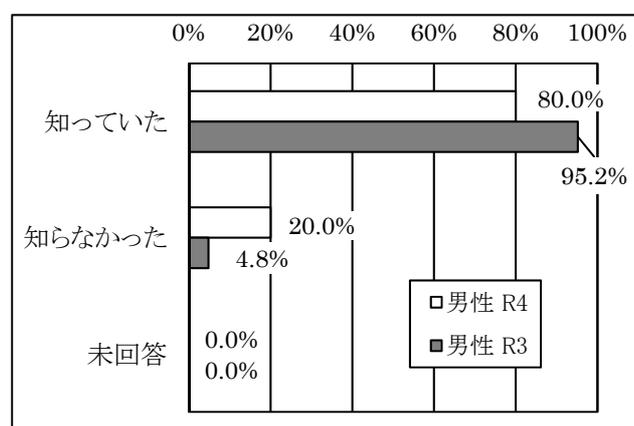
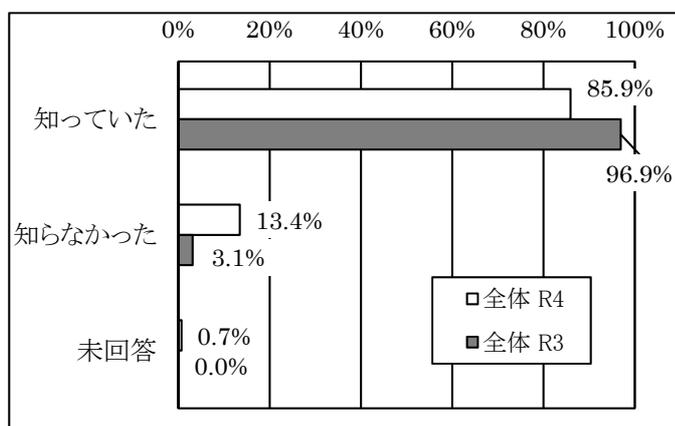
・デートDVについて

問6. あなたは、デートDVという言葉を知っていますか。

8割以上の生徒が「知っていた」と回答しましたが、その割合は令和3年度に比べて減少しました。

	全 体				男 性				女 性			
	R4		R3		R4		R3		R4		R3	
	人数 (人)	割合 (%)										
知っていた	128	85.9	158	96.9	44	80.0	79	95.2	83	89.2	78	98.7
知らなかった	20	13.4	5	3.1	11	20.0	4	4.8	9	9.7	1	1.3
未回答	1	0.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.1	0	0.0
計	149	100	163	100	55	100	83	100	93	100	79	100

※鹿角市男女共同参画計画の評価指標であることから、前回調査時との比較を実施。

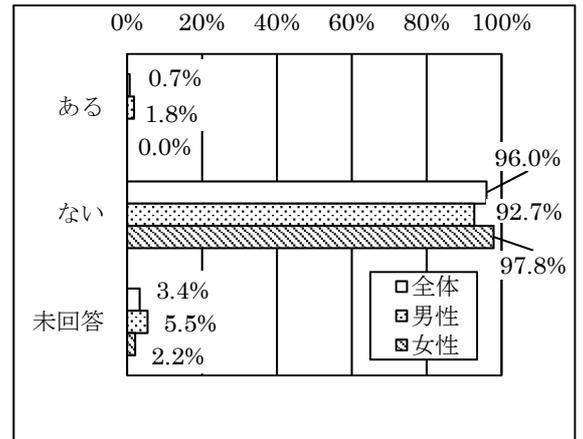


○昨年度までは各校で『デートDV防止講座』を実施し「デートDV」について周知していましたが、今年度からは1校が『性教育講座』に変更となり、講座の一部で「デートDV」に触れる内容になりました。このことが、「デートDV」認知度低下の一因と考えられます。「デートDV」の認知度向上を図るため、引き続き当アンケート調査を実施します。

問7. あなたは、これまでに交際相手からデートDVと思われる行為を受けたことがありますか。

1名が「ある」と回答しました。

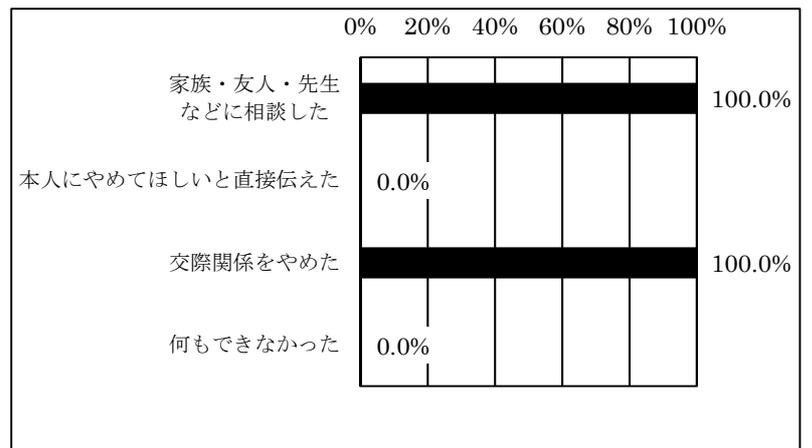
	全体		男性		女性	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
ある	1	0.7	1	1.8	0	0.0
ない	143	96.0	51	92.7	91	97.8
未回答	5	3.4	3	5.5	2	2.2
計	149	100	55	100	93	100



問7-1. 「ある」と回答した人に質問します。デートDVと思われる行為を受けたときに、どのような対応をしましたか。(複数回答)

「家族・友人・先生などに相談した」「交際関係をやめた」という回答がありました。

	人数(人)	割合(%)
家族・友人・先生などに相談した	1	100
本人にやめてほしいと直接伝えた	0	0.0
交際関係をやめた	1	100
何もできなかった	0	0.0

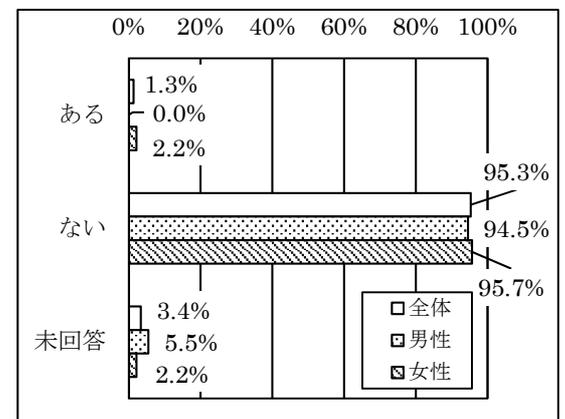


※問7で「ある」と回答した人数に対する割合

問8. あなたの友人やクラスメートが、デートDVと思われる行為を受けているのを見たり聞いたりしたことがありますか。

2人の生徒が「ある」と回答しました。

	全体		男性		女性	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
ある	2	1.3	0	0.0	2	2.2
ない	142	95.3	52	94.5	89	95.7
未回答	5	3.4	3	5.5	2	2.2
計	149	100	55	100	93	100



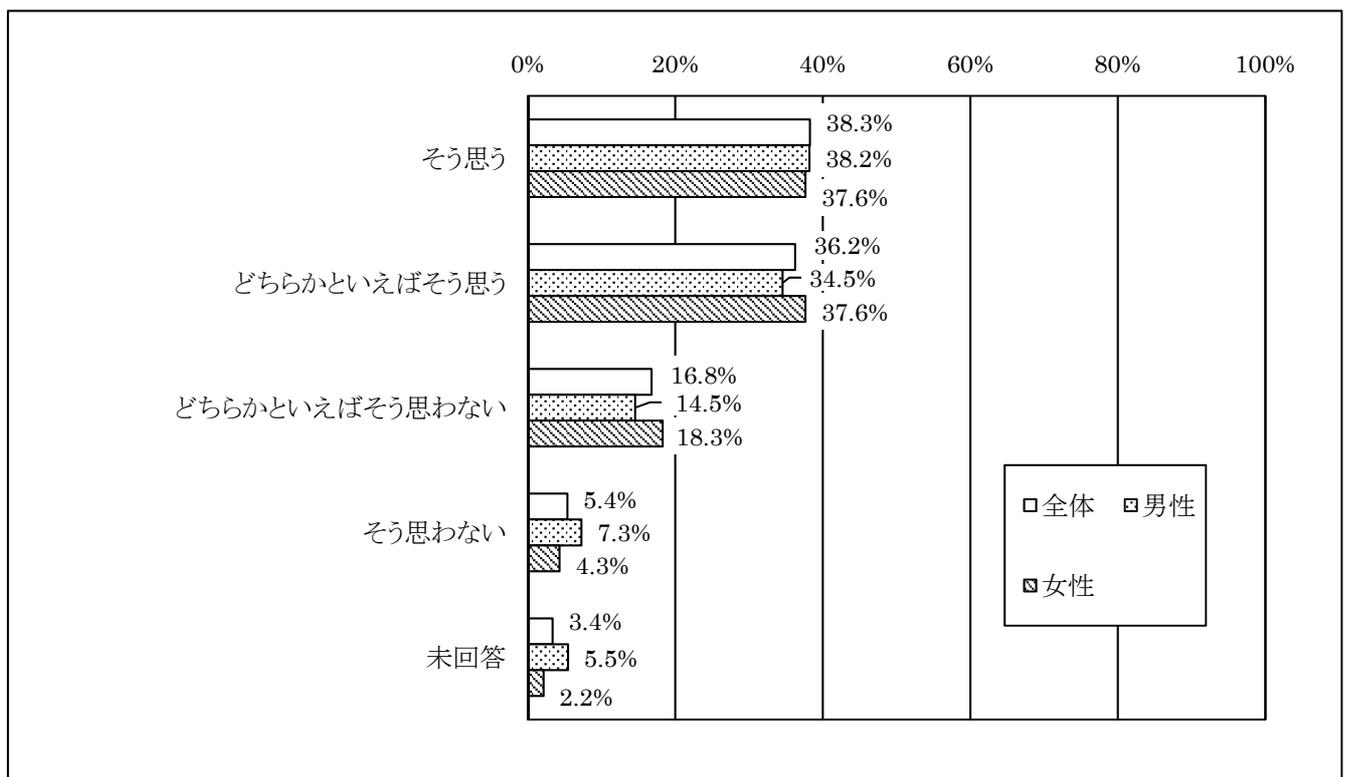
・DV行為に対する意識について

問9. あなたは、夫婦や恋人同士で起こる次のようなことをDV行為だと思いますか。

(1)何を言っても無視する

7割以上の生徒が「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答しました。

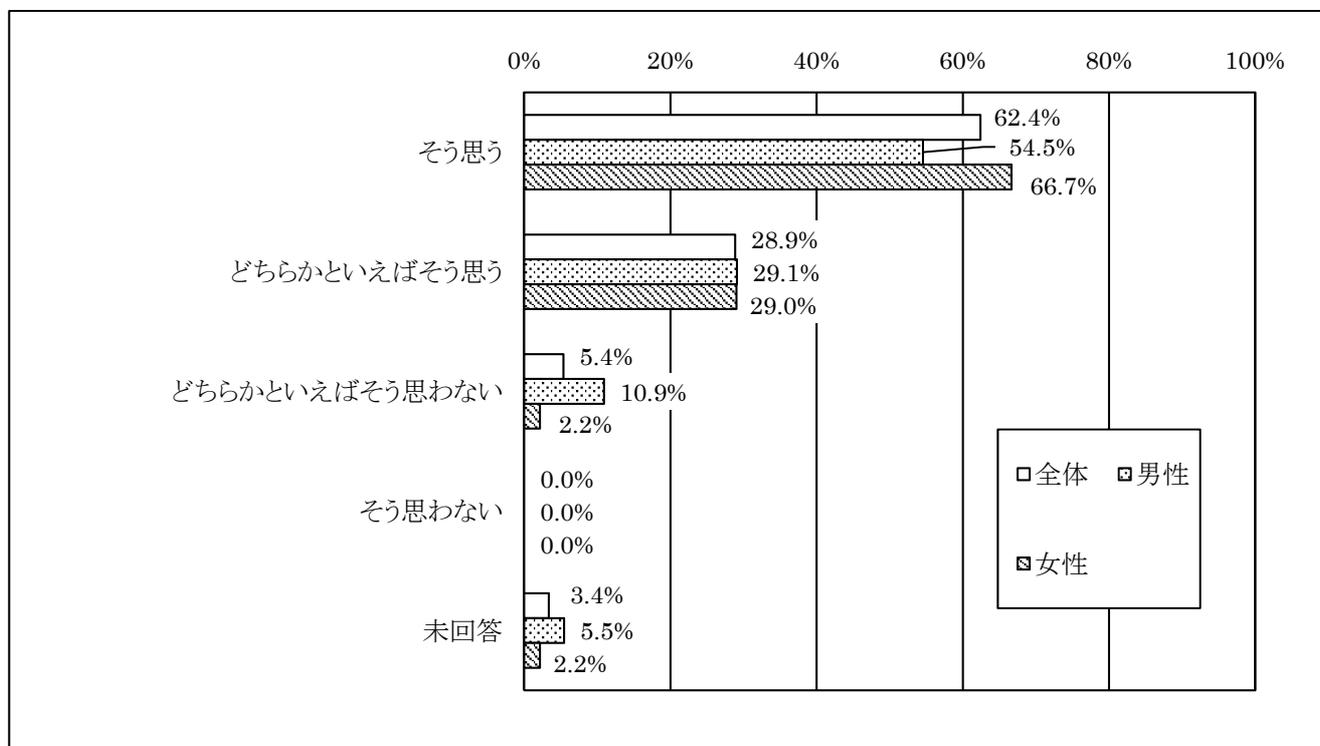
	全体		男性		女性	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
そう思う	57	38.3	21	38.2	35	37.6
どちらかといえばそう思う	54	36.2	19	34.5	35	37.6
どちらかといえばそう思わない	25	16.8	8	14.5	17	18.3
そう思わない	8	5.4	4	7.3	4	4.3
未回答	5	3.4	3	5.5	2	2.2
計	149	100	55	100	93	100



(2) 大声でどなる

9割以上の生徒が「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答し、女性の割合が高く、男性との差は12.1ポイントとなっています。

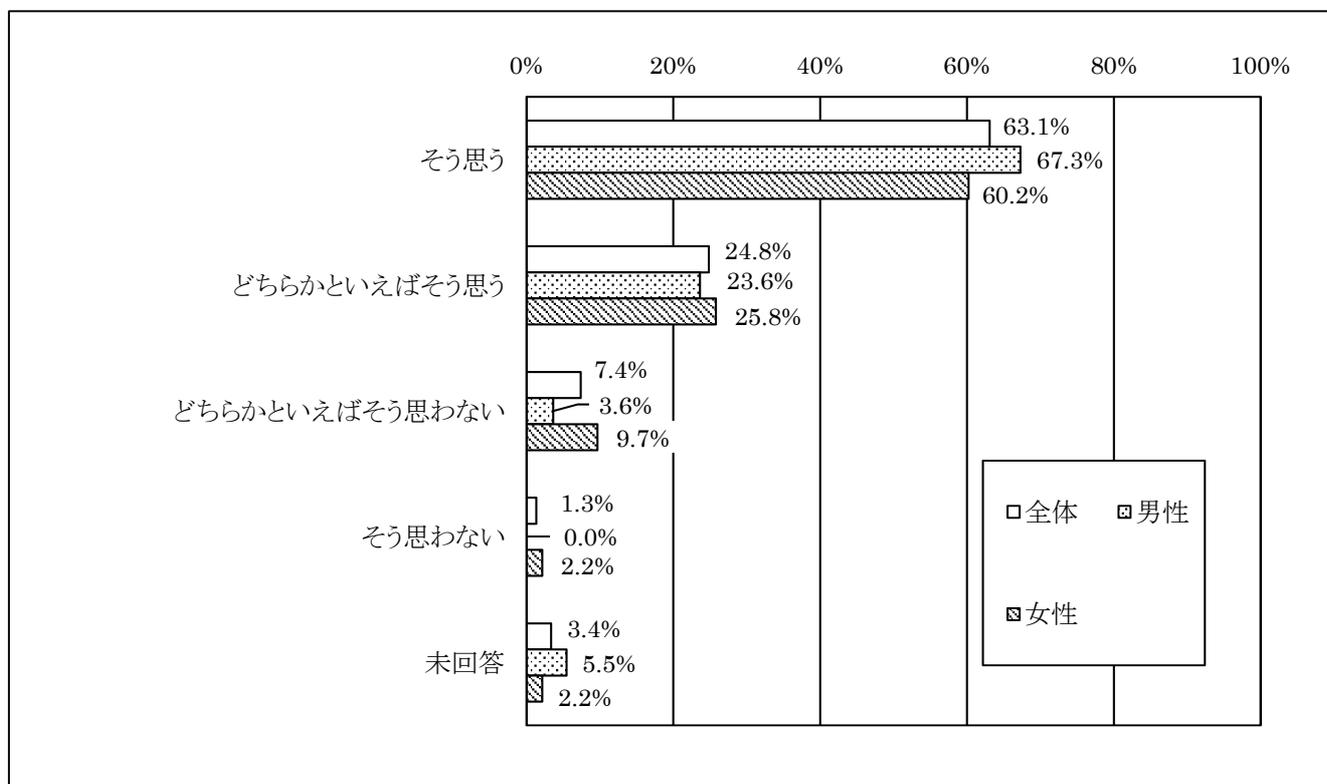
	全体		男性		女性	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
そう思う	93	62.4	30	54.5	62	66.7
どちらかといえばそう思う	43	28.9	16	29.1	27	29.0
どちらかといえばそう思わない	8	5.4	6	10.9	2	2.2
そう思わない	0	0.0	0	0.0	0	0.0
未回答	5	3.4	3	5.5	2	2.2
計	149	100	55	100	93	100



(3)相手の携帯電話をチェックして、異性の連絡先を消せと言う

8割以上の生徒が「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答しました。

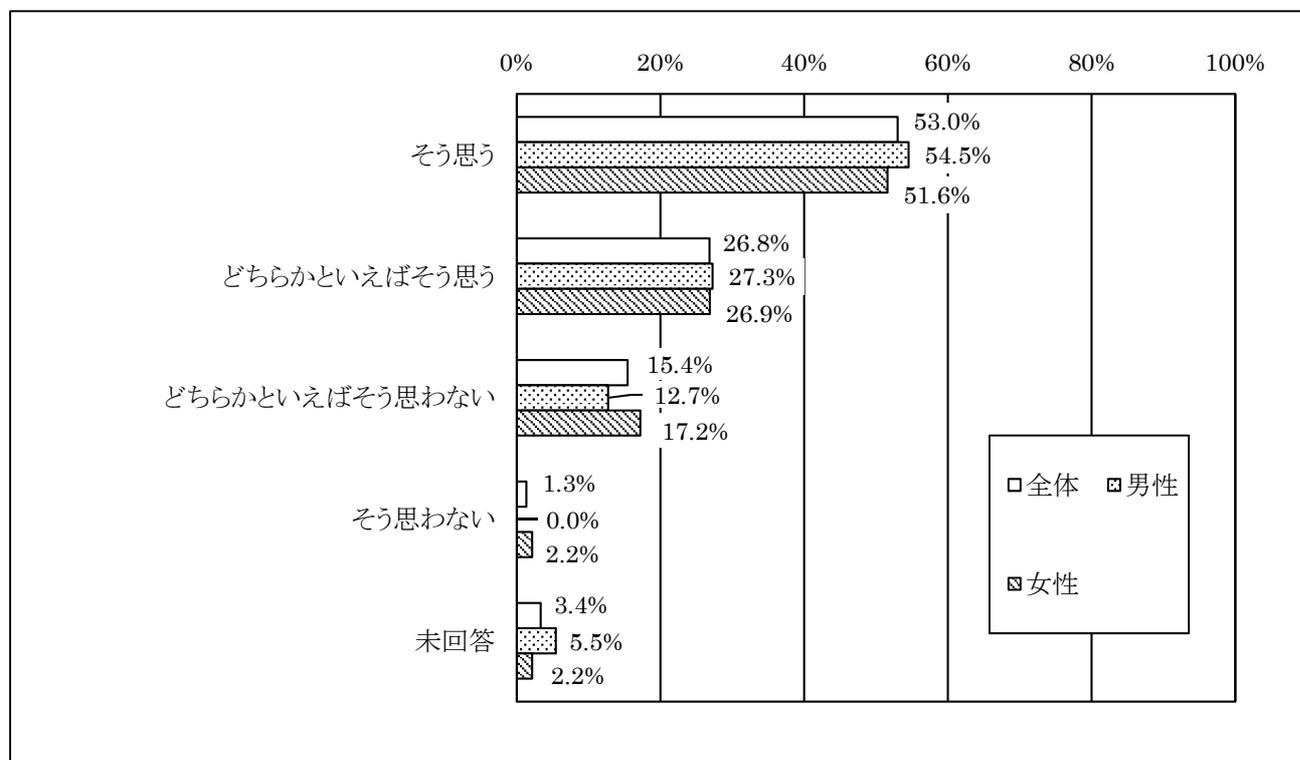
	全体			男性			女性	
	人数(人)	割合(%)		人数(人)	割合(%)		人数(人)	割合(%)
そう思う	94	63.1	87.9	37	67.3	90.9	56	60.2
どちらかといえばそう思う	37	24.8		13	23.6		24	25.8
どちらかといえばそう思わない	11	7.4	8.7	2	3.6	3.6	9	9.7
そう思わない	2	1.3		0	0.0		2	2.2
未回答	5	3.4		3	5.5		2	2.2
計	149	100		55	100		93	100



(4) しょっちゅう電話をしたり、相手の行動を制限しようとする

約8割の生徒が「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答しました。

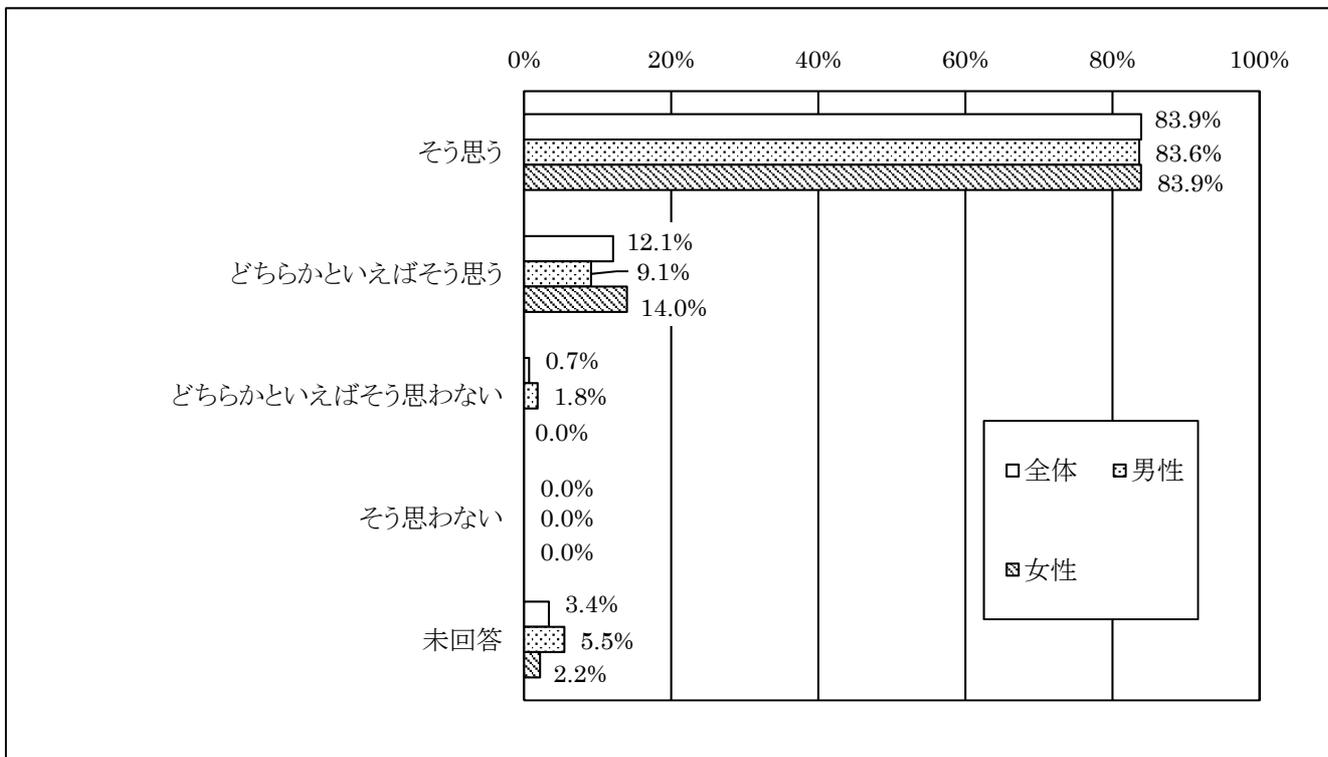
	全体		男性		女性	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
そう思う	79	53.0	30	54.5	48	51.6
どちらかといえばそう思う	40	26.8	15	27.3	25	26.9
どちらかといえばそう思わない	23	15.4	7	12.7	16	17.2
そう思わない	2	1.3	0	0.0	2	2.2
未回答	5	3.4	3	5.5	2	2.2
計	149	100	55	100	93	100



(5)お金を取り上げる

9割以上の生徒が「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答しました。

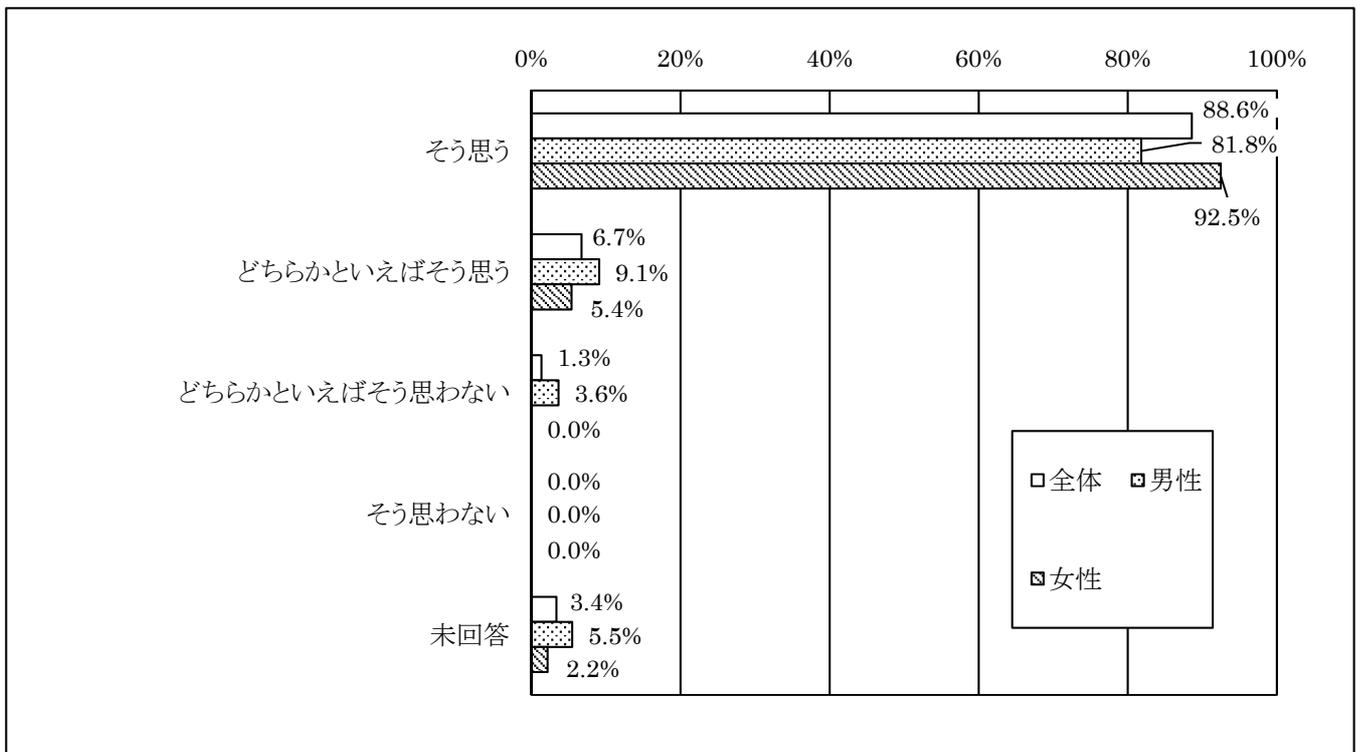
	全体		男性		女性	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
そう思う	125	83.9	46	83.6	78	83.9
どちらかといえばそう思う	18	12.1	5	9.1	13	14.0
どちらかといえばそう思わない	1	0.7	1	1.8	0	0.0
そう思わない	0	0.0	0	0.0	0	0.0
未回答	5	3.4	3	5.5	2	2.2
計	149	100	55	100	93	100



(6)なぐるふりをしておどす

9割以上の生徒が「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答しました。

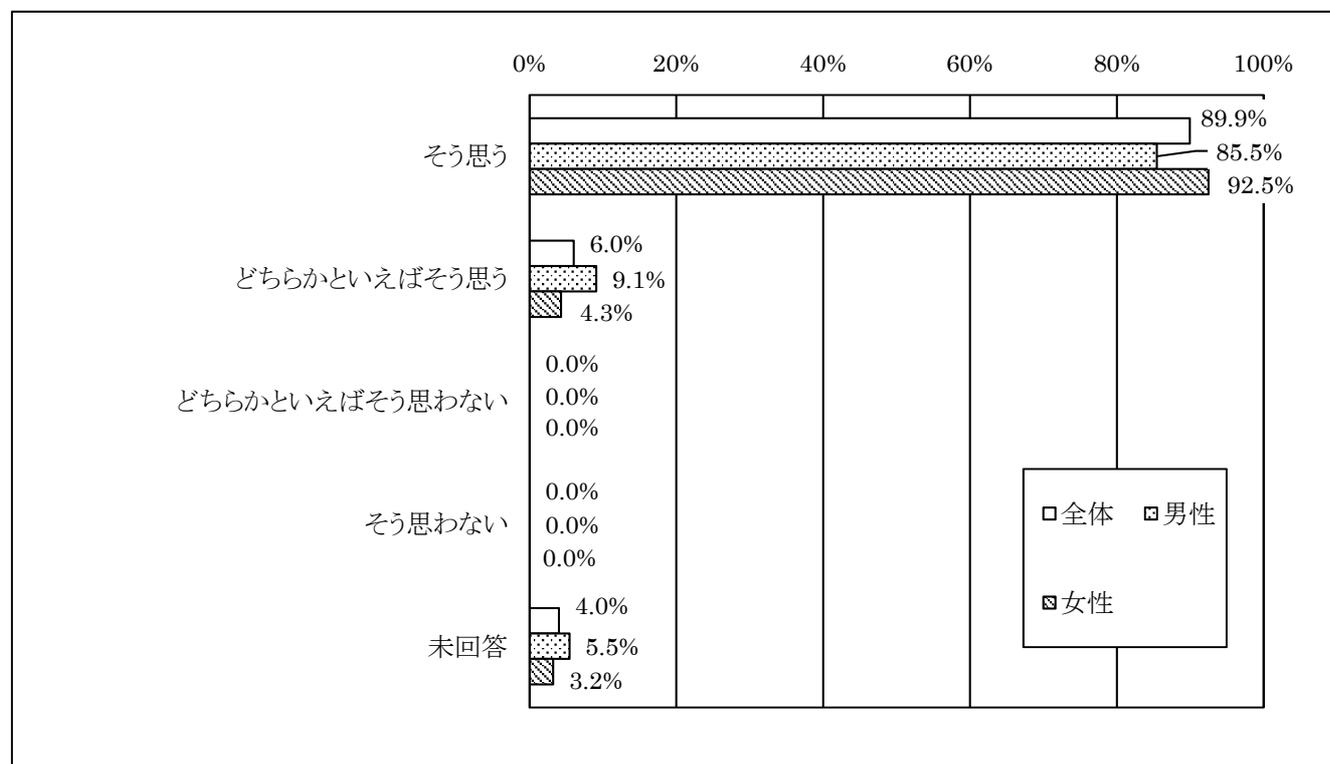
	全体			男性			女性	
	人数(人)	割合(%)		人数(人)	割合(%)		人数(人)	割合(%)
そう思う	132	88.6	95.3	45	81.8	90.9	86	92.5
どちらかといえばそう思う	10	6.7		5	9.1		5	5.4
どちらかといえばそう思わない	2	1.3	1.3	2	3.6	3.6	0	0.0
そう思わない	0	0.0		0	0.0		0	0.0
未回答	5	3.4		3	5.5		2	2.2
計	149	100		55	100		93	100



(7)ものを投げつける

9割以上の生徒が「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答し、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答した生徒はいませんでした。

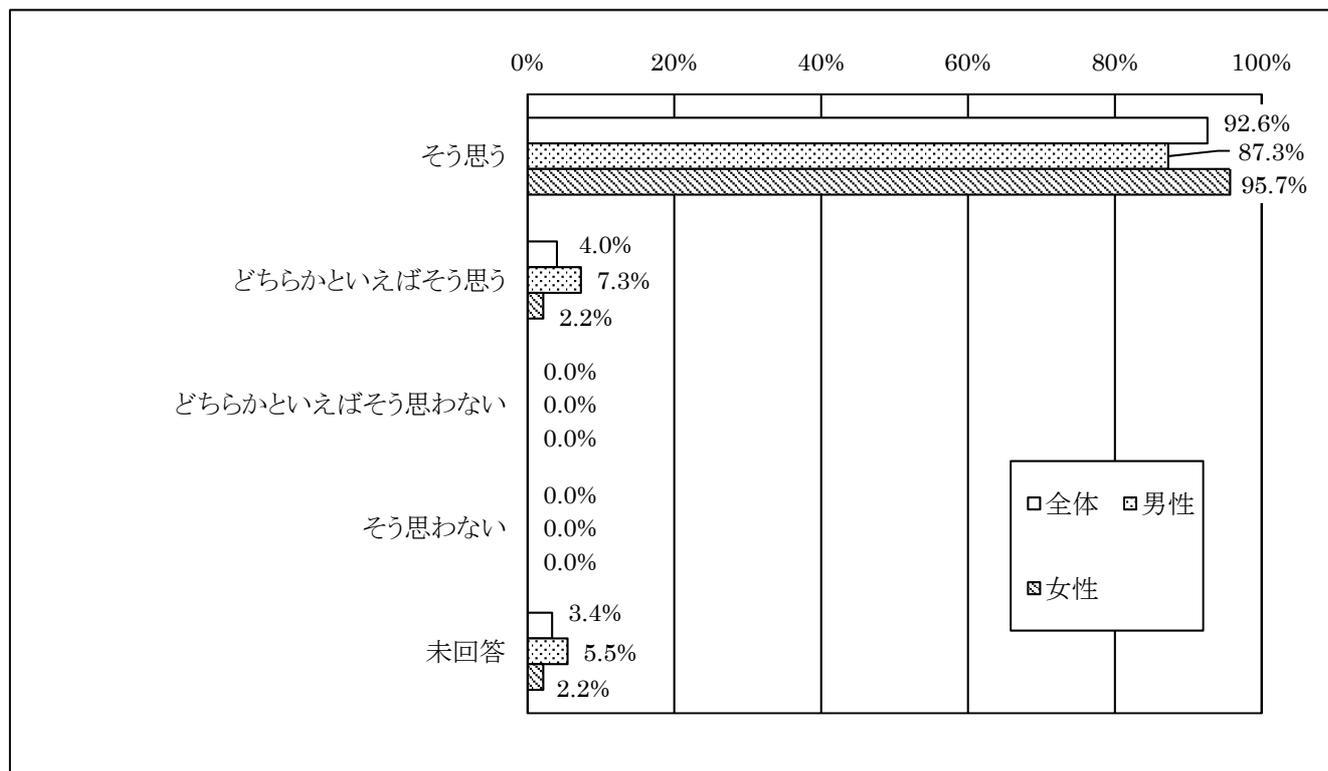
	全体		男性		女性	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
そう思う	134	89.9	47	85.5	86	92.5
どちらかといえばそう思う	9	6.0	5	9.1	4	4.3
どちらかといえばそう思わない	0	0.0	0	0.0	0	0.0
そう思わない	0	0.0	0	0.0	0	0.0
未回答	6	4.0	3	5.5	3	3.2
計	149	100	55	100	93	100



(8) 身体を傷つける可能性のある物でたたく

9割以上の生徒が「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答し、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答した生徒はいませんでした。

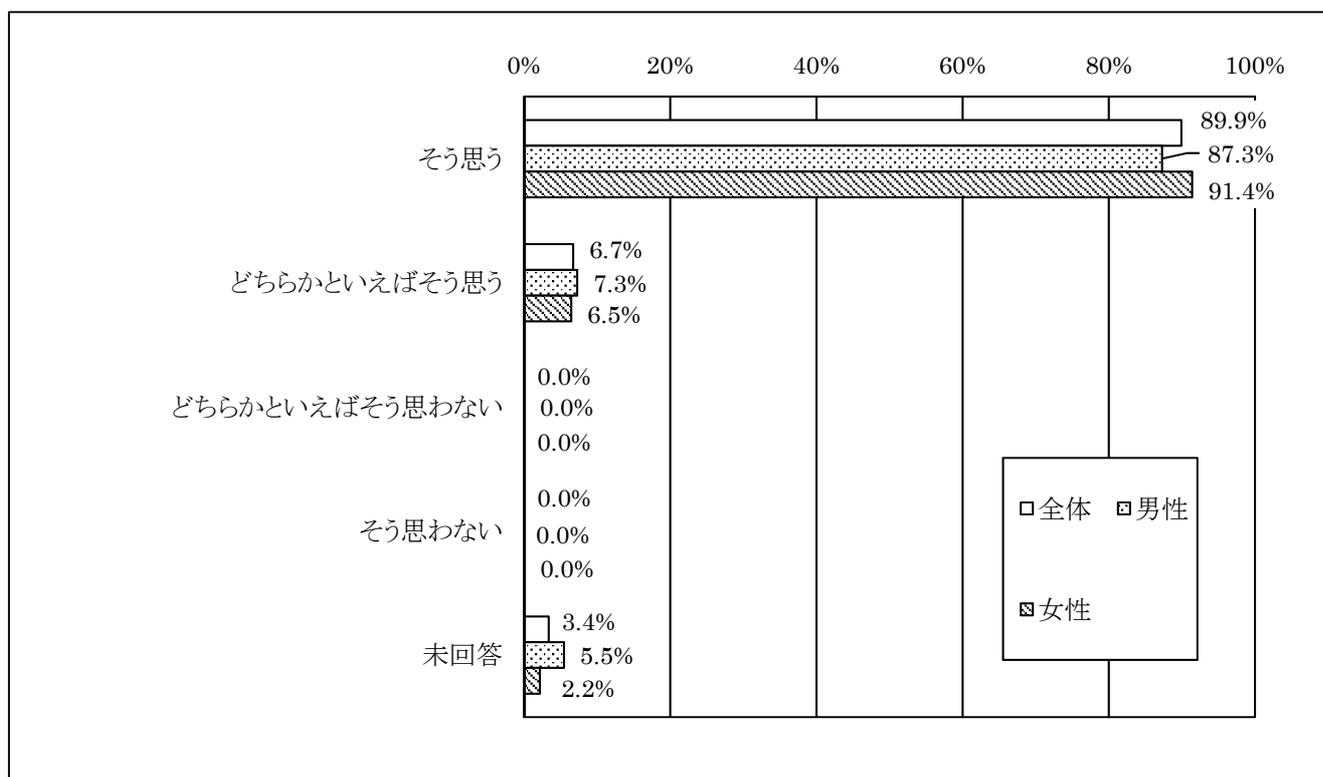
	全体			男性			女性		
	人数(人)	割合(%)		人数(人)	割合(%)		人数(人)	割合(%)	
そう思う	138	92.6	96.6	48	87.3	94.6	89	95.7	97.9
どちらかといえばそう思う	6	4.0		4	7.3		2	2.2	
どちらかといえばそう思わない	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0
そう思わない	0	0.0		0	0.0		0	0.0	
未回答	5	3.4		3	5.5		2	2.2	
計	149	100		55	100		93	100	



(9)相手が嫌がっているのに、無理やり体を触ったりする

9割以上の生徒が「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答し、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答した生徒はいませんでした。

	全体		男性		女性	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
そう思う	134	89.9	48	87.3	85	91.4
どちらかといえばそう思う	10	6.7	4	7.3	6	6.5
どちらかといえばそう思わない	0	0.0	0	0.0	0	0.0
そう思わない	0	0.0	0	0.0	0	0.0
未回答	5	3.4	3	5.5	2	2.2
計	149	100	55	100	93	100



○ (1) ~ (9) について、昨年度と同じような割合の回答となりました。

※DV行為の種類

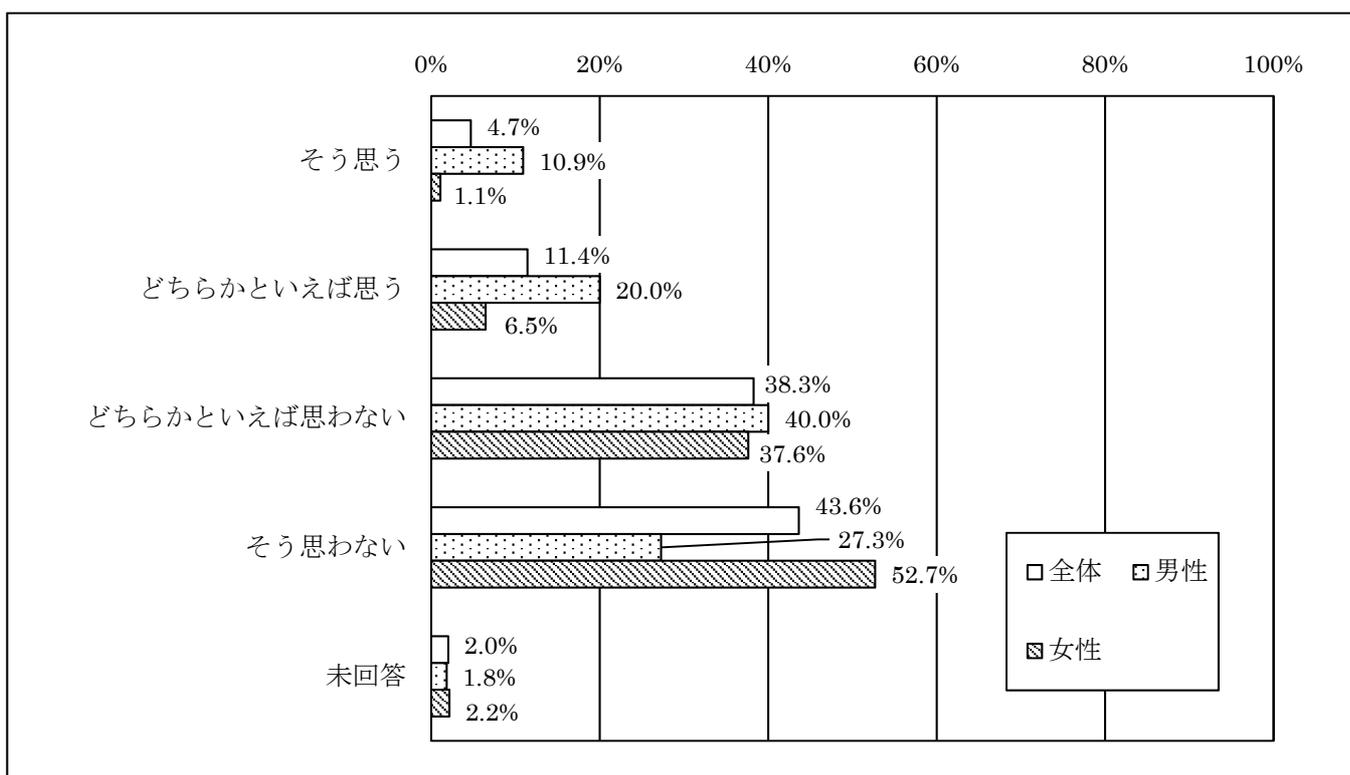
1. 身体的暴力：相手に物を投げる、叩くなど
2. 心理的感情的暴力：汚い言葉を使う、無視する、嫌がらせ、ストーキング、頻りに電話をかけてくる、過剰な嫉妬など
3. 性的暴力：自主的な承諾なしのあらゆる性的な物理的接触
4. 経済的暴力：お金を貢がせる、お金を借りて返さないなど

問10. 次の考え方について、あなたはどのように思いますか。

(1) DV行為を受けるのは、DV行為を受けるほうにも悪いところがあるからだ

8割以上の生徒が「どちらかといえばそう思わない」または「そう思わない」と回答し、女性の割合が高く、男性との差は23.0ポイントとなっています。

	全体		男性		女性	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
そう思う	7	4.7	6	10.9	1	1.1
どちらかといえばそう思う	17	11.4	11	20.0	6	6.5
どちらかといえばそう思わない	57	38.3	22	40.0	35	37.6
そう思わない	65	43.6	15	27.3	49	52.7
未回答	3	2.0	1	1.8	2	2.2
計	149	100.0	55	100	93	100

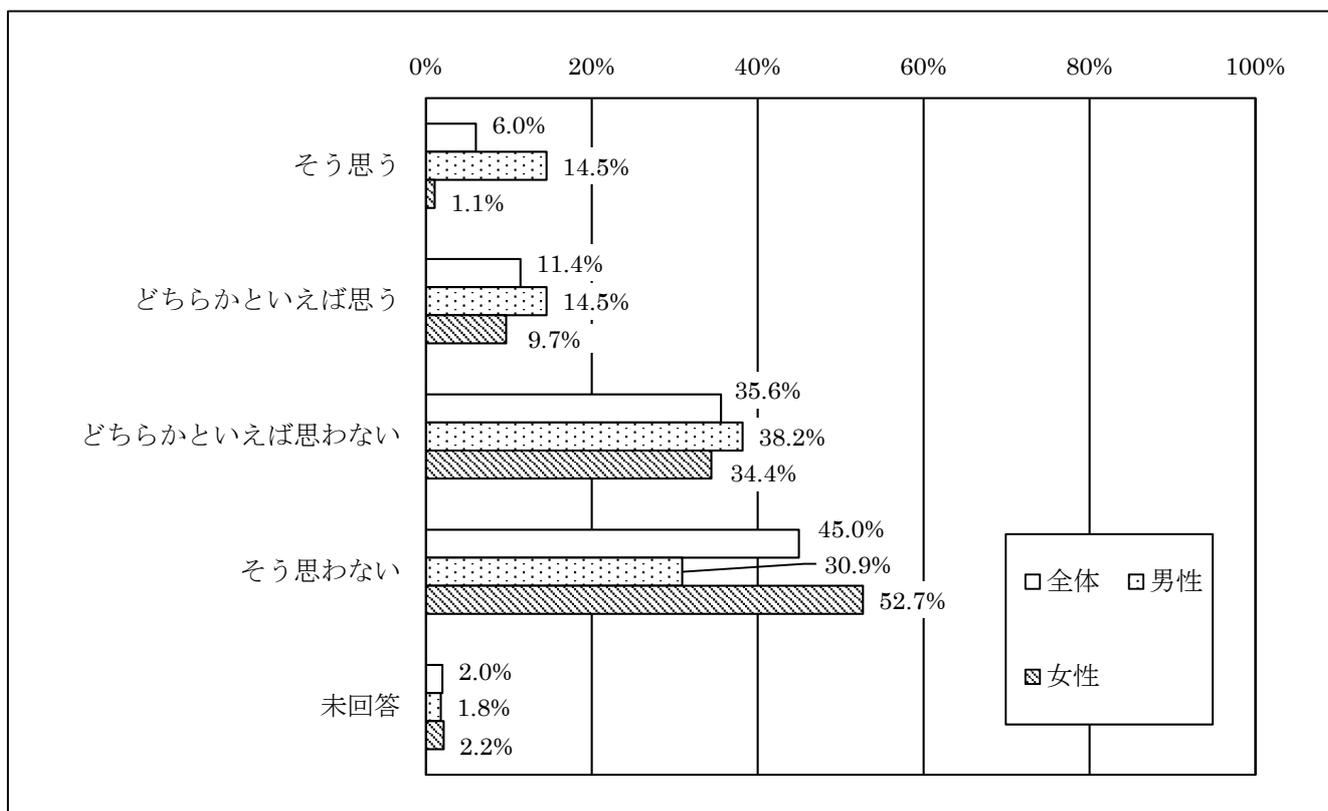


○昨年度も、8割以上の生徒が「どちらかといえばそう思わない」または「そう思わない」と回答し、女性の割合が高い結果でした。男性との差は12.8ポイントでしたので、DV行為に対する考えの男女差が拡大したことがうかがえます。

(2) 家の中で起こるDVは、家庭内で解決すべきだ

約8割の生徒が「どちらかといえばそう思わない」または「そう思わない」と回答し、女性の割合が高く、男性との差は18.0ポイントとなっています。

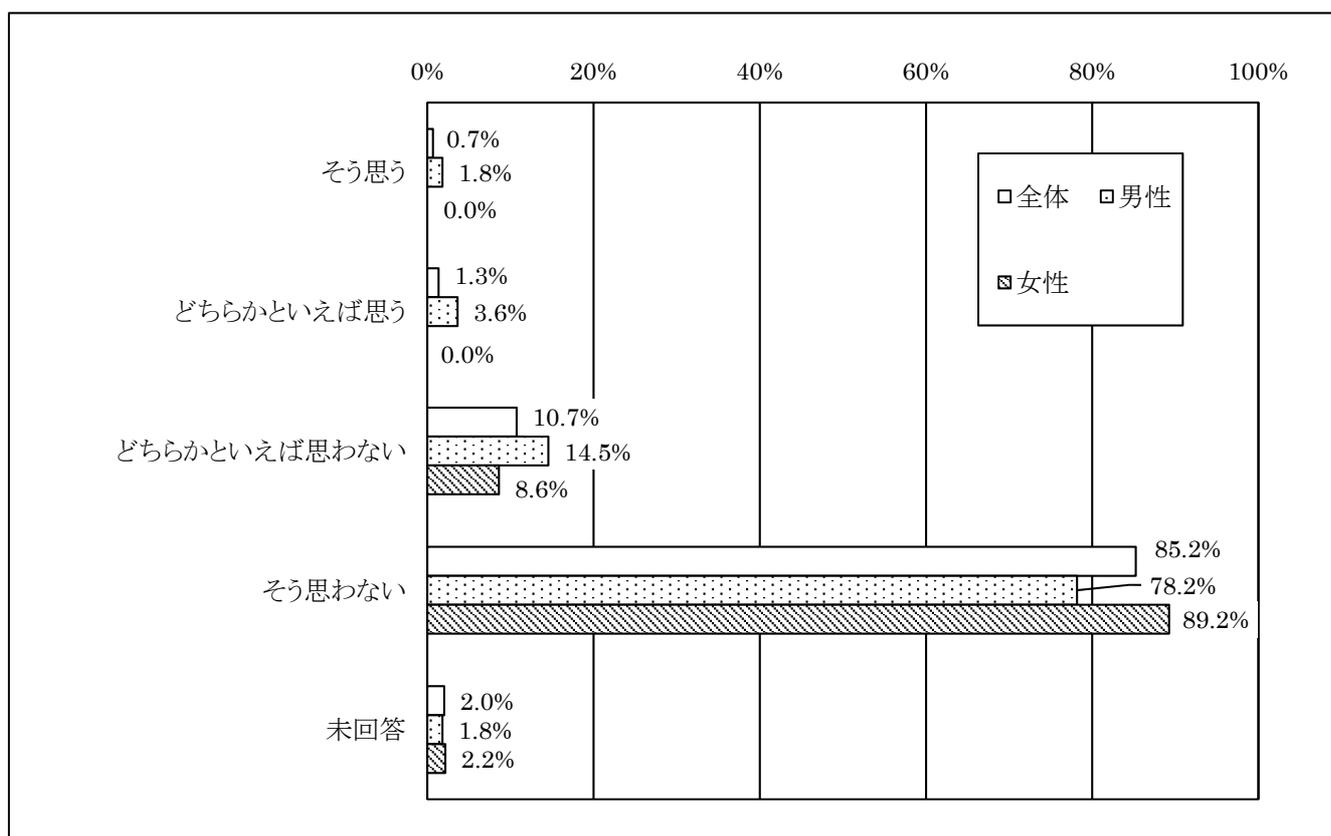
	全体		男性		女性	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
そう思う	9	6.0	8	14.5	1	1.1
どちらかといえばそう思う	17	11.4	8	14.5	9	9.7
どちらかといえばそう思わない	53	35.6	21	38.2	32	34.4
そう思わない	67	45.0	17	30.9	49	52.7
未記入	3	2.0	1	1.8	2	2.2
計	149	100	55	100	93	100



(3) 男性が暴力的なのは、男らしさの証である

9割以上の生徒が「どちらかといえばそう思わない」または「そう思わない」と回答しました。

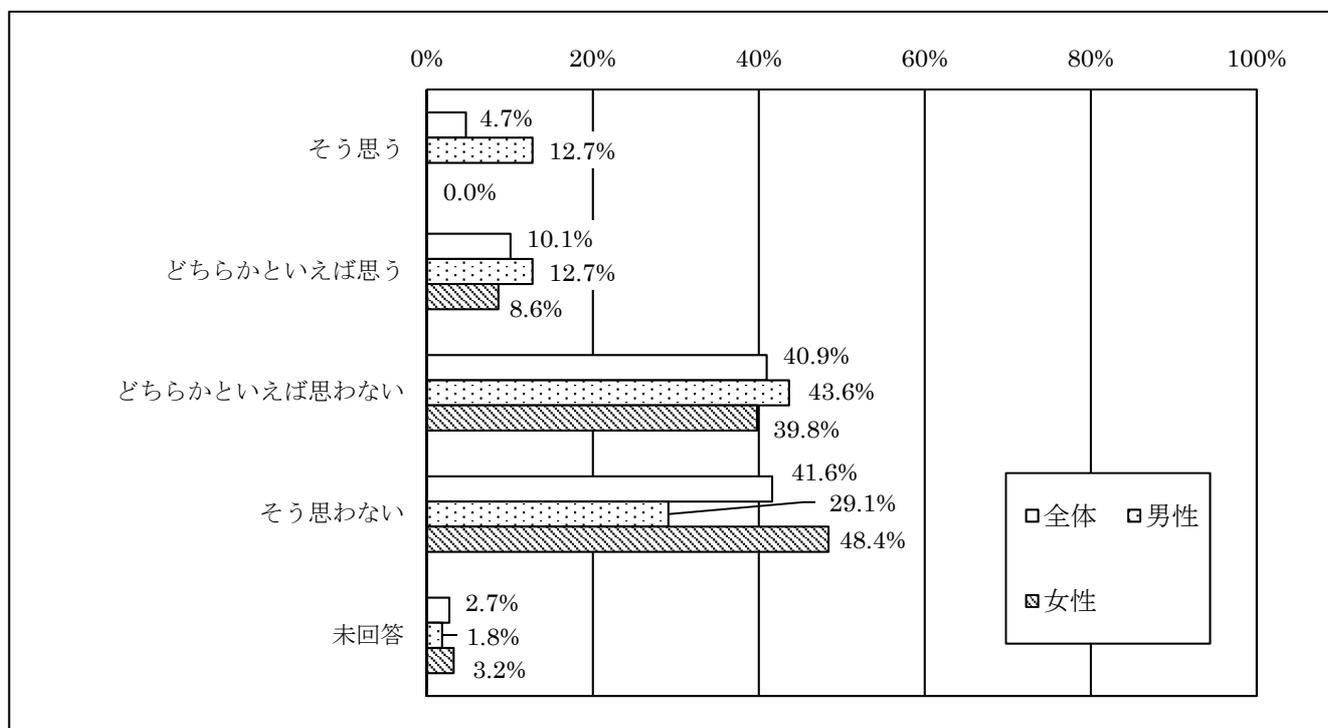
	全体		男性		女性	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
そう思う	1	0.7	1	1.8	0	0.0
どちらかといえばそう思う	2	1.3	2	3.6	0	0.0
どちらかといえばそう思わない	16	10.7	8	14.5	8	8.6
そう思わない	127	85.2	43	78.2	83	89.2
未回答	3	2.0	1	1.8	2	2.2
計	149	100	55	100	93	100



(4) DV行為を受けても話し合いで解決できるはずだ

8割以上の生徒が「どちらかといえばそう思わない」または「そう思わない」と回答し、女性の割合が高く、男性との差は15.5ポイントとなっています。

	全体		男性		女性	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
そう思う	7	4.7	7	12.7	0	0.0
どちらかといえばそう思う	15	10.1	7	12.7	8	8.6
どちらかといえばそう思わない	61	40.9	24	43.6	37	39.8
そう思わない	62	41.6	16	29.1	45	48.4
未回答	4	2.7	1	1.8	3	3.2
計	149	100	55	100	93	100

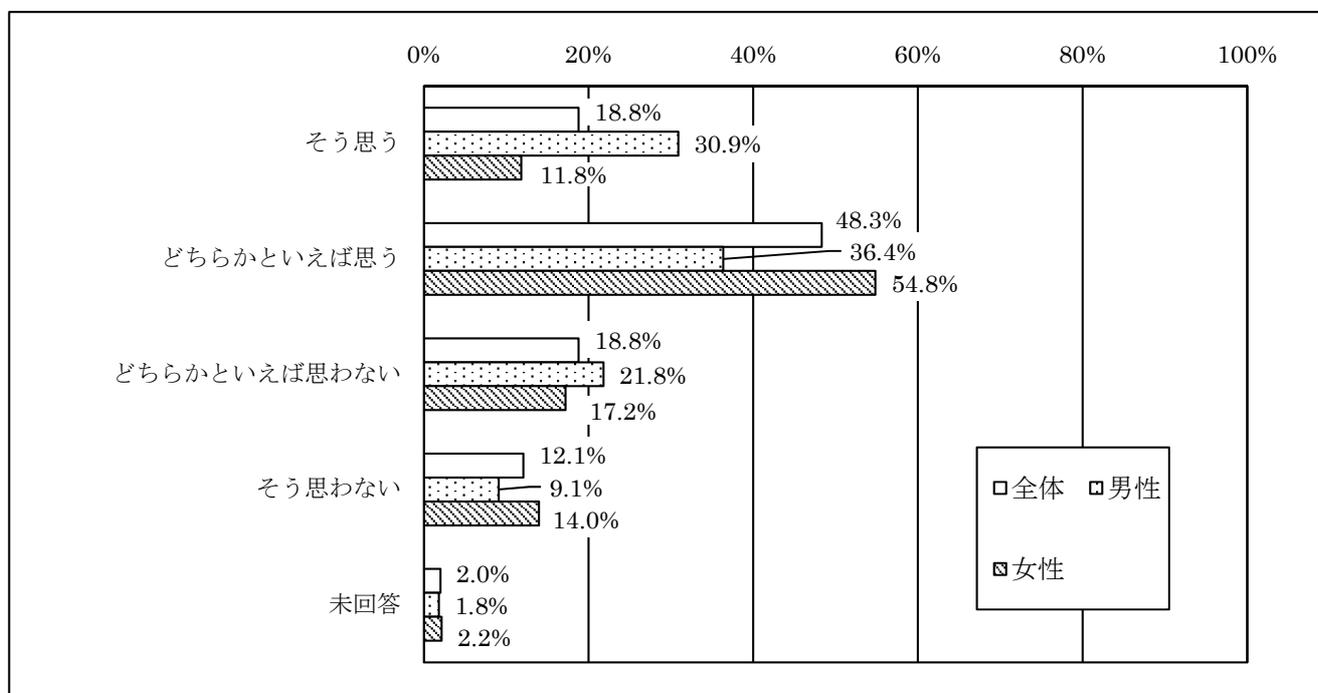


○ (2) ~ (4) について、昨年度と同じような割合の回答となりました。

(5) 女性に対するDVの背景には女性差別がある

6割以上の生徒が「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答しました。

	全体		男性		女性	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
そう思う	28	18.8	17	30.9	11	11.8
どちらかといえばそう思う	72	48.3	20	36.4	51	54.8
どちらかといえばそう思わない	28	18.8	12	21.8	16	17.2
そう思わない	18	12.1	5	9.1	13	14.0
未回答	3	2.0	1	1.8	2	2.2
計	149	100	55	100	93	100



○昨年度調査では、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合は57.7%で、昨年度より9.4ポイント増加しました。

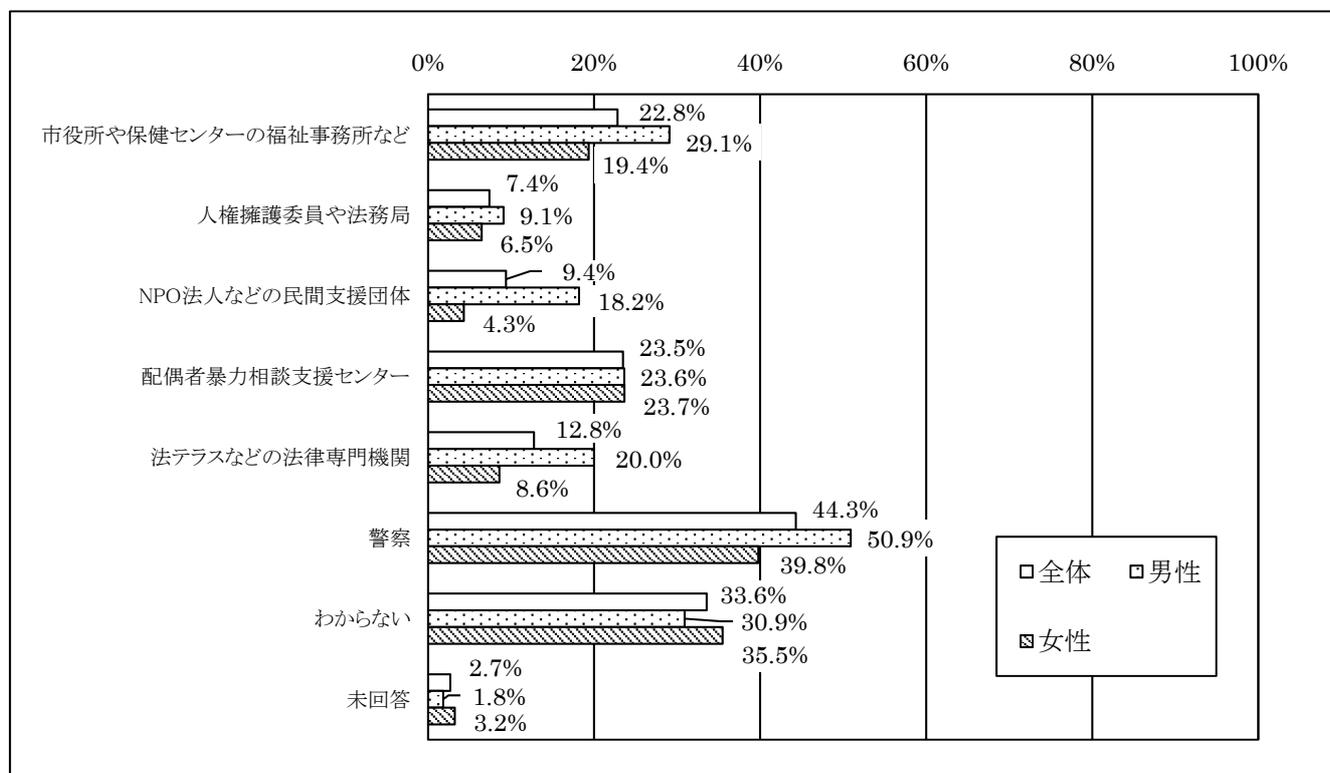
・DV行為に関する相談機関について

問11. あなたは、デートDV等の被害を受けたとき、次の相談機関のうち、どこに相談しますか。
(複数回答)

「警察」の割合が最も高く、4割以上の生徒が回答しました。次いで相談先が「わからない」の割合が高くなっています。

	全体(149人)		男性(55人)		女性(93人)	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
市役所や保健センターの福祉事務所など	34	22.8	16	29.1	18	19.4
人権擁護委員や法務局	11	7.4	5	9.1	6	6.5
NPO 法人などの民間支援団体	14	9.4	10	18.2	4	4.3
配偶者暴力相談支援センター	35	23.5	13	23.6	22	23.7
法テラスなどの法律専門機関	19	12.8	11	20.0	8	8.6
警察	66	44.3	28	50.9	37	39.8
わからない	50	33.6	17	30.9	33	35.5
未回答	4	2.7	1	1.8	3	3.2

※全体、男性、女性の各割合は、それぞれの生徒数に対する割合



○昨年度と同じような割合の回答となりました。相談先が「わからない」という生徒も3割以上いることから、相談先の周知が必要です。

・性別に関わらず、生きやすい社会にするために必要なことについて

問12. あなたは、「女性にとっても男性にとっても生きやすい社会」にするためにはどのようなことが必要だと思いますか。(自由回答) (一部抜粋)

固定概念の撤廃、男女平等な社会づくり

- ・男性だからこうしなければならない、女性だからこうしなければならないという固定概念を捨てて、性別関係なく相手にとってうれしいことなどをすべきだと思います。そのために、協力し合っていくのは難しいけれど、それが少しずつでもできていくと社会はだいぶ変わってくるのかなと思いました。
- ・「女だから」「男だから」という概念をなくし、役割や仕事の分担をすることが必要だと思う。
- ・男と女の性別の概念を捨てる。1人の人として接する。
- ・男性は外で仕事、女性は家事・育児のような意識をなくし、女性がもっと社会参加できるといいと思う。
- ・男性や女性がどうあるべきという固定概念にとらわれずに公平に生活していくことが必要。
- ・女性、男性はこうあるべきだという固定概念をなるべくなくした方が、一人一人の個性が輝くようになると思う。
- ・「女らしさ」「男らしさ」という固定概念をなくす必要があると思う。人にはできる・できない、得意・不得意がある。
- ・昔から続いていた、男女それぞれの役割という偏見をなくすことが大事。
- ・“女だから”や“男性だから”という差別をつけないことが必要だと思う。みんな同じ人間だからこそ一人一人が平等に扱われるべきだと思う。
- ・女性だから、男性だからという区別をなくすことが大切だと思う。昔からの風習のようなものは簡単になくならないけれど、これを若い世代にどんどんつなげていくことが必要だと思う。
- ・男はこれ、女はこれ、という性別に対する偏見をなくし、どちらも対等に考えることが必要だと思う。
- ・性別関係なく接してみんなに平等にすることが必要だと思う。相手の気持ちを理解する力がこれから先必要になってくると思う。
- ・男性、女性どちらも活躍できる場を平等に作ること。
- ・女性からの意見と男性からの意見を平等に評価すること。
- ・「男」「女」という言葉を使わない。「誰でも」など平等に扱う。

男女がお互いを理解し尊重し合う、思いやる

- ・互いを尊重して理解し合うこと。
- ・女性も男性も、他を尊重し合うことが必要だと思います。
- ・お互いにリスペクトし合えばいいと思う。
- ・お互いが尊重し合って、不自由なく生活できる社会にしていくこと。
- ・思いやりの心をもって生活すること。気遣いをして生活する。
- ・男女の差別をなくし、お互いに思いやりをもって生活していくことが必要だと思う。自分の意見を相手に押しつけるなどして、人権をなくしてしまうようなことは絶対にあってはいけないと思う。
- ・男女差別なく、男性も女性も互いのことを理解し合えるような環境を作っていくことが必要だと思う。
- ・両者にとって生きやすい社会を作るのは少し難しいかもしれないから、少しずつ男女が協力していつて、思いやりをもつことが必要。

その他

- ・何か言う前に相手の気持ちになってみてから言うことが大切だと思います。自分がされていやなことは相手にもしない。
- ・男性も育児、介護をするのが当たり前の時代になったと理解する必要がある。上に立った者から積極的に育児、介護をすべき。結婚しても苗字を変えなくてもいいと選択できる法律を作った方がいいと思う。
- ・もっと男性も育休を取りやすいように企業が取り組む。
- ・女性が再び職に就くレベルが高すぎます。男性が育児のために休むことが認められる社会。
- ・差別と区別の違いをよく理解すること。
- ・男性、女性として見るのではなく、一人の人間として見る方が生きやすくなると思います。
- ・性別に関する区別をつけすぎないこと。
- ・まず男女差別をしないこと。男性の方が立場が上だと思わない。
- ・法律などの面で変えていくことも大切だが、一人一人の意識を変えられるような取り組みをすることが必要だと思う。
- ・今この問題を野放しにしている政府を変える。
- ・性別で区別する考え方はすぐには消えないと思うので、長い目で見て政策を積み重ねていかなければならないと思います。
- ・法的なところをもっと整備する。行政的なところでも整備をする。
- ・女性にとっても男性にとっても生きやすい社会にするには、公平、平等にするより、個々の意思に耳を傾ける方が大切だと思った。
- ・中高生くらいから講座や授業などで学ぶ。
- ・「当たり前」が今に当てはまっているのか考える。
- ・性別を問わずに、いろんな分野で活躍する人が増えればいいと思う。
- ・ジェンダー社会を築き上げていくことが必要だと思う。